

院内業務の改善・効率化を実現

～会員支援ツールによる問題解決事例のご紹介～

システム管理課

はじめに

当検査センターでは、平成16年(2004年)に、会員の先生方に IT 技術を用いた診療支援を行うために、システム管理課を発足いたしました。現在は、総員7名で活動しております。本号では、システム管理課の紹介も含め、これまで医療機関の院内業務の改善・効率化を実現してきた当検査センターの会員支援ツールについて、問題解決事例を交えてご紹介します。

1. システム管理課の役割

システム管理課の主な役割として、院内業務の改善・効率化をはかる会員支援ツールの導入や、院内の電子カルテや医療機器等とのシステム連携（検査依頼や検査結果の連携）を行っています。また、検査結果報告書の作成や電子データでの検査結果の送信などの検査結果報告業務、さらに、当検査センター全体のシステム管理も担当しています。

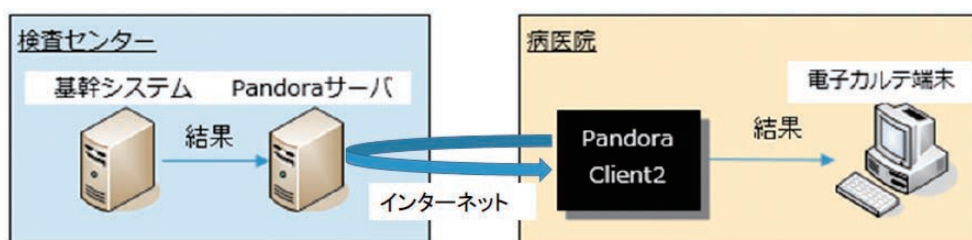
2. 問題解決事例の紹介

本章では、当検査センターの会員支援ツールについて、これまで対応してきた問題解決事例を交えてご紹介します。

【問題解決①】 FD/USB よりも早く検査結果データを電子カルテで確認したい ☞インターネットを利用した報告サービス『Pandora』で解決！

『Pandora』とは、インターネットを利用して安全な環境で検査結果データを医療機関にてダウンロードする仕組みです。安全面については、厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に準じた「なりすまし防止」「改ざん防止」「盗聴防止」「誤送信防止」対策によるセキュリティ環境を実現しています。

現在、媒体（FD/USB）を介して検査結果データを授受している医療機関については、院内にインターネット環境があれば、『Pandora』での検査結果データのダウンロードが可能です。

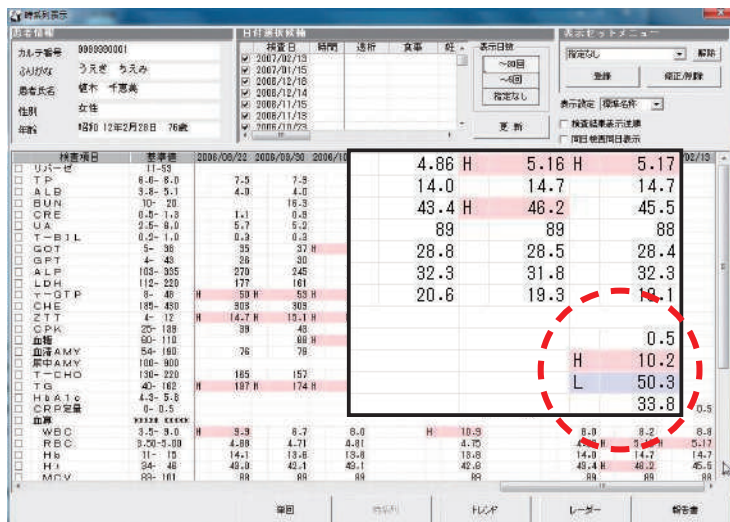


【問題解決②】 検査結果を時系列で確認したい

👉 検査結果閲覧システム『WOLF』で解決！

当検査センターでは、検査結果報告書のほかに、インターネットを利用して手軽に検査結果データをダウンロードできる検査結果閲覧システム『WOLF』を使って検査結果報告を行っています。『WOLF』には、検査結果の時系列表示や印刷、紹介状作成等の多くの機能があり、諸先生方に活用されています。

▼時系列表示画面



● WOLFは1時間に1度最新の血液結果をお送りしていますので、リアルタイムに検査結果を確認することができます。

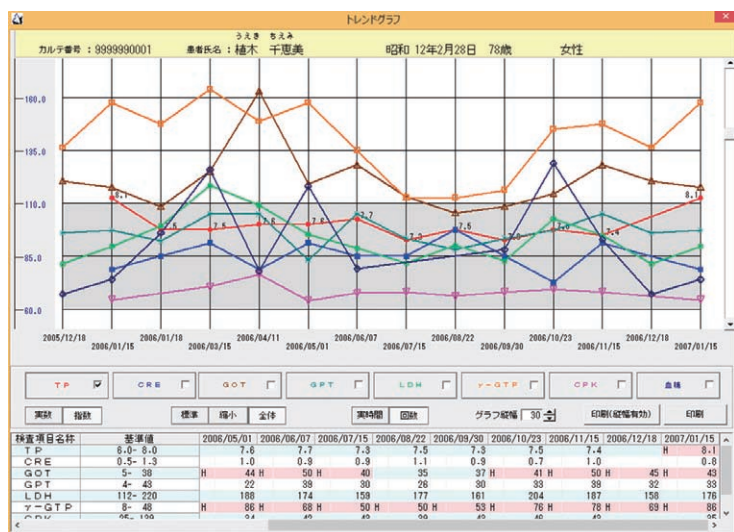
● 時系列表示画面では、左図のように結果値のLHが色でわかれていますので、一目で異常値の確認が可能です。

● トレンドグラフ内の灰色の帯が検査項目の基準範囲の幅になっています。

● 結果値の推移がこのグラフで一目瞭然です。

● 患者様にとっても、わかりやすいグラフですので、検査結果の説明の際や今後のご指導にもご活用いただけます。

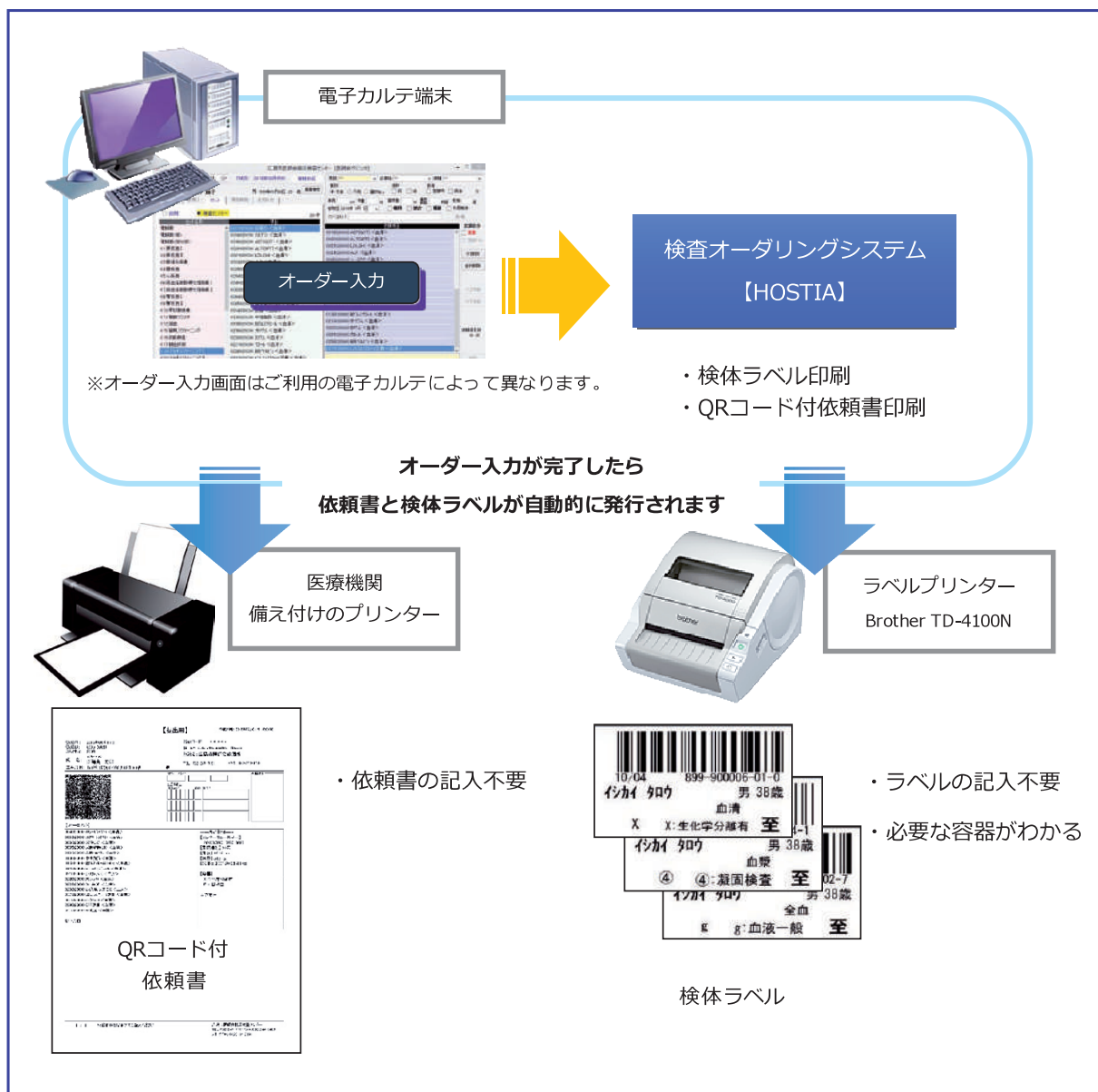
▼トレンドグラフ



【問題解決③】 依頼書・検体ラベルの記入が手間、検体採取容器がわかりづらい ⇨ 検査オーダーリングシステム『HOSTIA(ホスティア)』で解決!

検査オーダーリングシステム『HOSTIA(ホスティア)』は、電子カルテとの連携が可能です。

▼電子カルテ×HOSTIA（ホスティア）連携のイメージ



＜連携実績＞

Hi-SEED AS（日立メディカルコンピュータ）、Medicom-HR・DP（パナソニック）、Brain Box（ユヤマ）、Dynamics（ダイナミクス）、Doctor's Desktop（CMS）等

また、検査オーダーリングシステム『HOSTIA（ホスティア）』は、電子カルテがなくても既存の端末で手軽に検査依頼書、検体ラベルを作成することが可能です。

検査オーダーリングシステム『HOSTIA』の特長

1. 様々なオーダー方法に対応

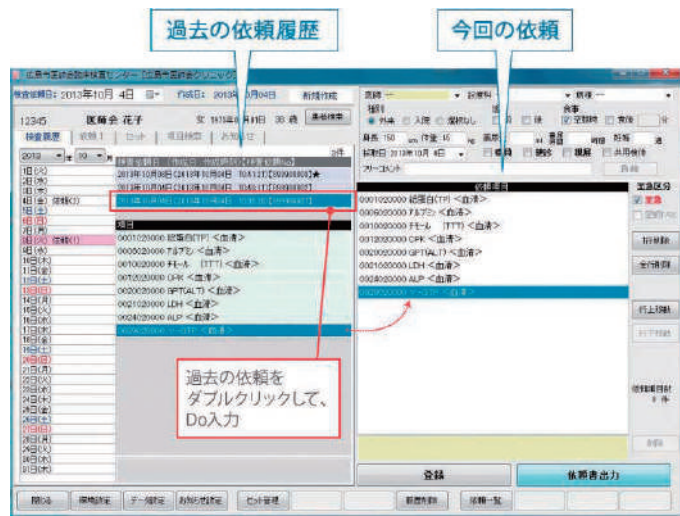
- 自由にセットを組み、依頼していただけます。
- 検査履歴がカレンダーで表示されます。

2. 検査依頼書 I の項目から選択

- 検査依頼書 I に掲載されている項目から依頼項目を選択できます。

3. 短時間でオーダーが可能

- 検査依頼書と必要な検体ラベルがワンクリックで出力されます。
- 過去の依頼履歴からの検査オーダーの出力が可能です。（右図）
- WOLF と連携しているため、患者情報などの属性入力が不要です。



4. 採血に必要なラベルを出力

- 検体ラベルに容器名称が印字されます。

HOSTIAより出力される依頼書(例)



HOSTIAより出力されるバーコード付きラベル(例)



【問題解決④】 血液検査だけでなく、細菌・病理・細胞診の結果もPCで確認したい 👉『PDF 報告書閲覧システム』で解決！

この度、かねてより医療機関からご要望のあった、細菌、病理、細胞診の結果報告書をパソコンで確認するためのツール『PDF 報告書閲覧システム』を開発し、平成28年5月より医療機関への提供を開始しました。先生方が導入される電子カルテとの連携にも順次対応し、医療機関の業務効率化にお応えできるよう努めていきます。

▼ PDF 報告書閲覧システム画面



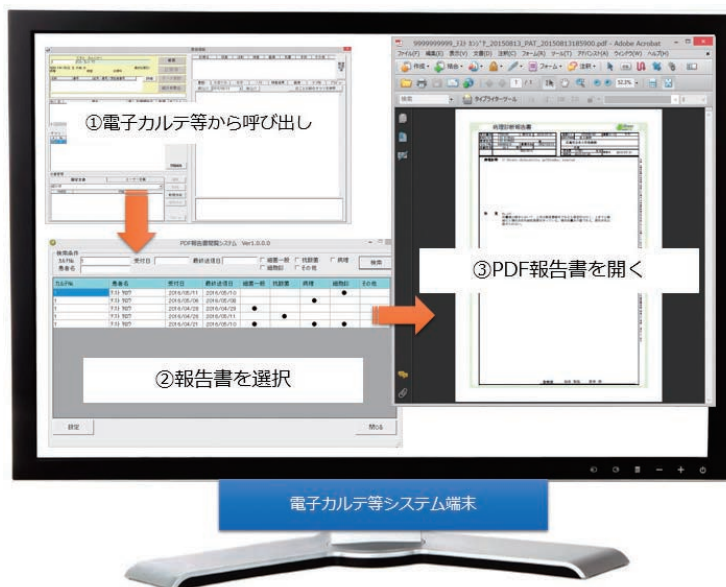
- カルテNo、患者名等で検索し、細菌一般、抗酸菌、病理、細胞診の分類の中から、確認したい報告書をクリックすると、該当のPDF 報告書が開きます。
- インターネット経由でPDF 報告書の配信をおこなっています。現在ご利用のインターネット端末に設定可能です。

▼電子カルテ等 システム連携イメージ

- 電子カルテ等のシステムからPDF 報告書閲覧システムの呼び出しが可能な場合、右図のイメージで連携が可能です。
- 現在各電子カルテベンダーとの連携確認を進めています。

<連携実績>

Hi-SEED AS (日立メディカルコンピュータ)
(平成28年7月現在)



【問題解決⑤】 電子カルテを導入したので検査報告書が不要になった ☞システム管理課または担当営業員までご相談ください。

ペーパーレスにするには、当検査センターが発行している紙の検査報告書と同様な検査情報を電子カルテ上で受け取れることが条件となります。なお、ご利用の電子カルテによって条件が異なりますので、詳しくは、システム管理課または営業課営業推進係（担当営業員）までお問い合わせください。

	検査報告書種別	ペーパーレスの可否	条件
血液	総合報告書	可	電子カルテ上で、当検査センターからの報告コメントが1項目あたり2個受け取ることができること ^{〔注1〕}
	患者サービス報告書	可	
形態学	病理報告書	条件次第で可	電子カルテ上で、PDF 報告書を受け取ることができること（準備中）
	細胞診報告書	条件次第で可	
	細菌報告書	条件次第で可	

〔注1〕報告コメントが1項目あたり1個しか受け取れない場合、『総合報告書』や『患者サービス報告書』のペーパーレス化は可能ですが、報告書コメントが反映された「検査報告一覧表」をお届けすることになります。

おわりに

今回、ご紹介した会員支援ツールは、会員の先生方、スタッフの皆様からお寄せいただいたご意見・ご要望により開発、導入に至ることができました。システム管理課では、今後も医療機関のご要望にお応えできるよう、より一層の努力をします。また、迅速・丁寧な対応を念頭に業務にあたり、会員の先生方の診療支援ができるシステム管理課を目指します。

（お問い合わせ窓口）

一般社団法人

広島市医師会 臨床検査センター

システム管理課システム係 田中、前崎、山口 まで

電話番号：082-247-7198（直通）